

コロナ禍における 学生生活に関する調査報告書



関西大学学生センター

本調査の概要

コロナ禍における学生生活の満足度や課外活動、経済状況、不安・悩み等の正課以外の学生生活を幅広く把握し、相関関係を明らかにする。

調査期間

2021年7月14日（水）～2021年8月31日（火）

調査対象

学部生（27,361人）

調査方法

インフォメーションシステムにより、調査への協力を依頼した。回答方法はMicrosoftの「Forms」から回答する形式をとった。

有効回答

5,670件（回答率：20.7%）

回答結果

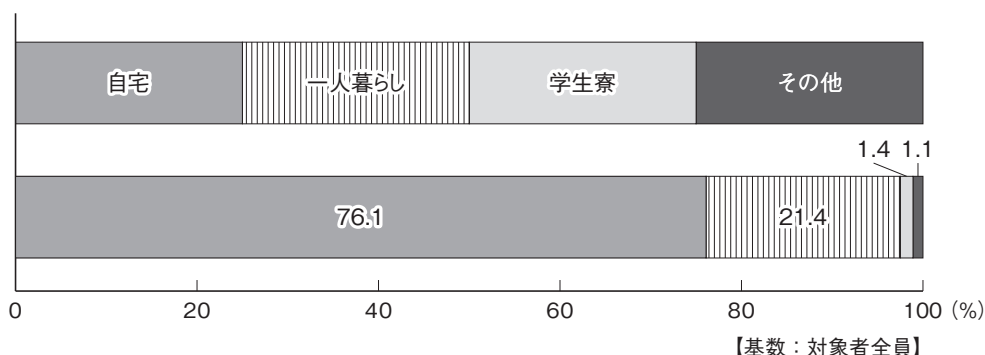
	回答数					合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	5年次生以上	
法 学 部	218	158	142	107	9	634
文 学 部	330	224	180	159	10	903
経 済 学 部	175	130	123	93	2	523
商 学 部	205	138	127	111	8	589
社 会 学 部	226	155	129	132	3	645
政 策 創 造 学 部	119	62	72	54	4	311
外 国 語 学 部	57	47	42	51	2	199
人 間 健 康 学 部	82	68	72	61	3	286
総 合 情 報 学 部	106	103	78	62	9	358
社 会 安 全 学 部	79	53	50	36	2	220
シ ス テ ム 理 工 学 部	158	91	104	94	9	456
環 境 都 市 工 学 部	76	55	70	39	2	242
化 学 生 命 工 学 部	113	69	58	63	1	304
合 計	1,944	1,353	1,247	1,062	64	5,670

その他

調査結果のグラフ及び基礎集計表の数値は、データ集計時、少数第2位を四捨五入している関係上、選択肢の数値を合計しても100（%）とならない場合がある。

住居形態

問3 あなたの住居形態は次のうちどれですか。

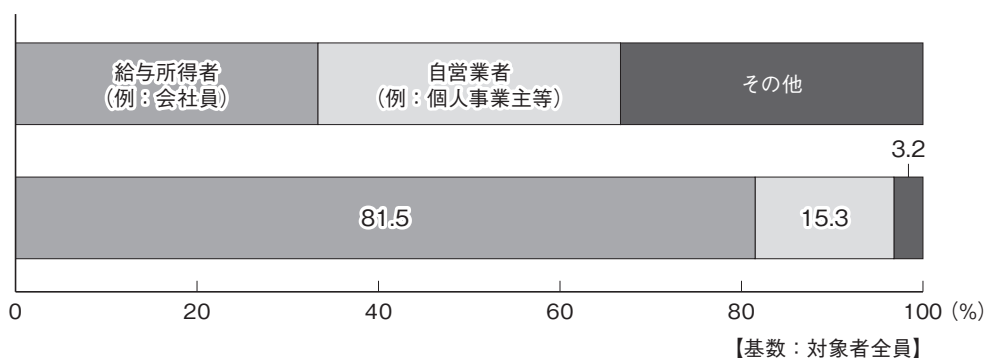


自宅から通学する学生の割合が7割以上

今回の調査で住居を「自宅」と回答した学生の割合は76.1%、自宅以外の「一人暮らし」「学生寮」「その他」を回答した学生が23.9%となり、自宅生と下宿生（自宅以外）の割合はおおむね8：2であることが読み取れる。

家計支持者の収入形態

問4 主たる家計支持者（主に学費を負担している父母等）の収入形態を教えてください。

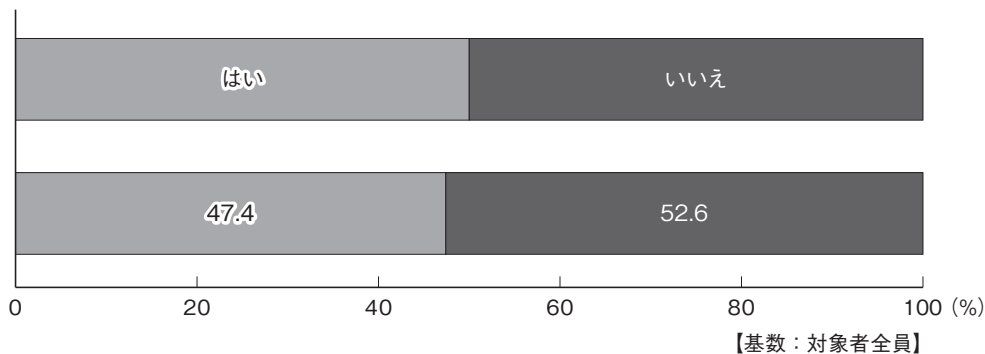


81.5%が「給与所得者」と回答

今回の調査で主たる家計支持者の収入形態を「給与所得者」と回答した学生の割合は81.5%、「自営業者」と回答した学生の割合は15.3%となった。

奨学金の受給状況

問5 現在、国や大学、財団等の奨学金を受けていますか。

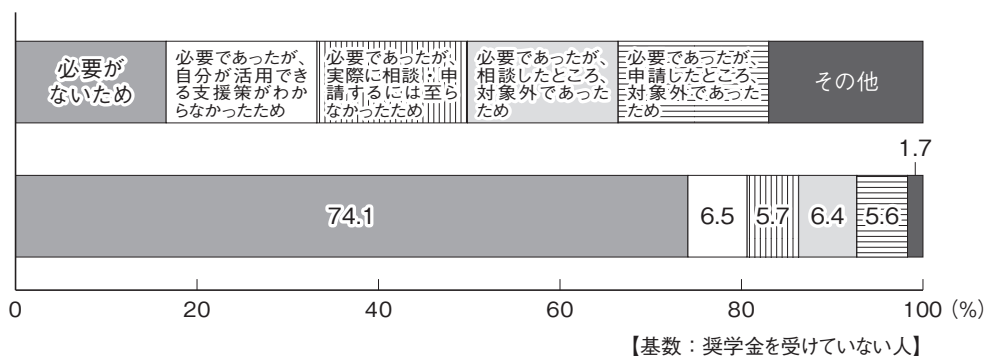


約半数の学生が奨学金を受給していると回答

奨学金を「受けている」と回答した学生の割合が47.4%、奨学金を「受けていない」と回答した学生の割合が52.6%となり、約半数の学生が奨学金を受給していることが読み取れる。

奨学金を受給していない理由

問5-1 問5で「いいえ」と答えた方にうかがいます。「いいえ」と回答した理由をお答えください。



〈その他〉

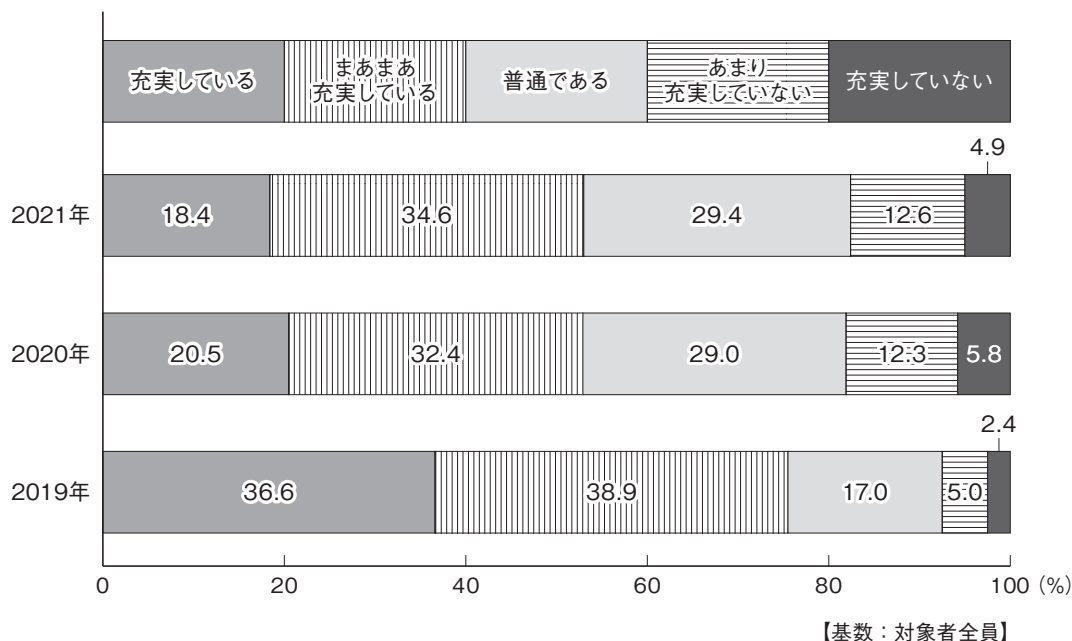
- ・対象外であるため
- ・申請中であるため
- ・休学中であるため
- ・教育ローンを借りているため
- ・親が必要ないと判断したため
- ・返済が必要であるため
- ・将来の借金になるため
- ・手続き書類が複雑であるため
- ・日本に居住していないため
- ・審査に落ちたため
- ・答えたくない

奨学金を受けていない学生の7割が「必要がないため」と回答

奨学金を受けていない学生で「必要がないため」と回答した学生の割合は74.1%という結果となった。その一方で、「必要であったが、自分が活用できる支援策がわからなかったため」「必要であったが、実際に相談・申請するには至らなかったため」と回答した学生の割合は12.2%と、相談・申請する前に諦めた学生もいることから、周知時期や周知方法、相談体制について検討する必要があることがわかった。

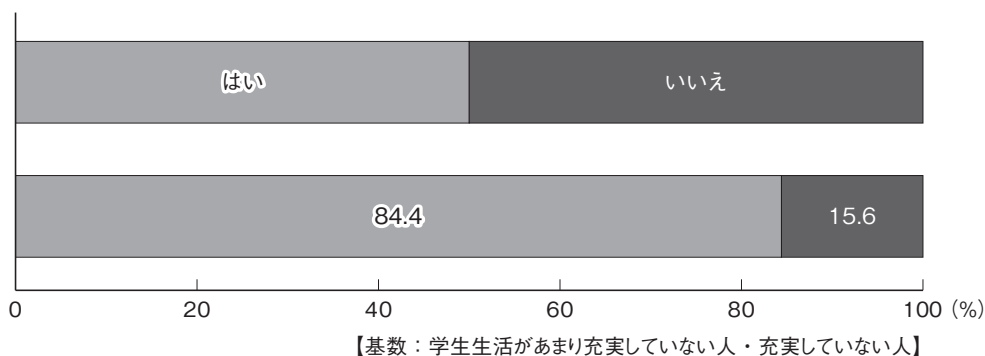
学生生活の充実度

問 6 あなたの学生生活は充実していますか。



問 6-1

問 6 で「あまり充実していない」または「充実していない」と答えた方にうかがいます。その理由は、新型コロナウイルス感染症によるさまざまな活動制限によるものですか。



新型コロナウイルス感染症の影響により学生生活の充実度は大幅に低下

今回の調査で、学生生活が「充実している」「まあまあ充実している」と回答した学生の割合は、53.0%となり、新型コロナウイルス感染症下で行った2020年度学生生活実態調査と比較して、ほぼ同じ数値となった。

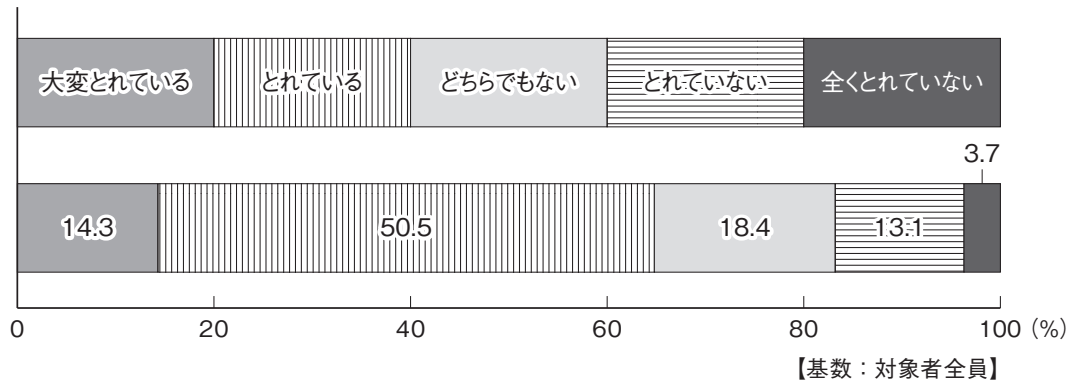
一方で、新型コロナウイルス感染症が感染拡大する前の2019年度学生生活実態調査では、「充実している」「まあまあ充実している」と回答した学生の割合は75.5%であり、今回の調査と比較すると、学生生活の充実度が22.5ポイントも減少していることが読み取れる。

また、問 6 で学生生活が「あまり充実していない」「充実していない」と回答した学生に、その理由をたずねたところ、新型コロナウイルス感染症の影響による様々な活動制限によるものであると回答した学生の割合が80%以上にのぼった。

新型コロナウイルス感染症が学生生活の充実度に大きく影響を及ぼしていることが顕著に現れた結果となった。

同級生や友人とのコミュニケーション

問7 同級生や友人とのコミュニケーションはとれていますか。



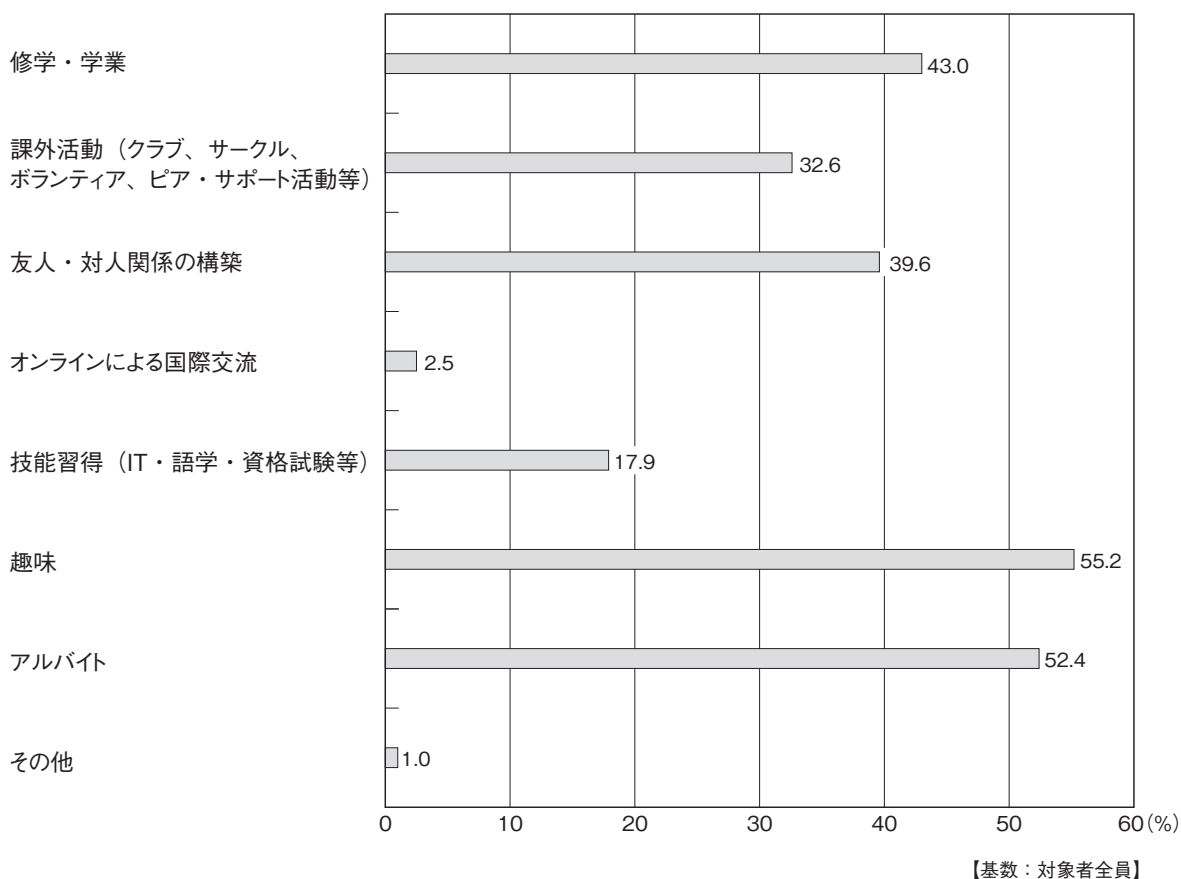
同級生や友人とのコミュニケーションをとれている学生が約65%

今回の調査で同級生や友人とのコミュニケーションを「大変とれている」「とれている」と回答した学生の割合が64.8%となり、新型コロナウイルス感染症下においても、6割を超えるの学生が同級生や友人とのコミュニケーションをとれているということがわかった。

クロス集計では、同級生や友人とのコミュニケーションを「大変とれている」「とれている」と回答した学生の80%以上が学生生活について「充実している」「まあまあ充実している」のいずれかを回答しており、同級生や友人とのコミュニケーションが学生生活の充実に大きな影響を与えていることがわかった。

学生生活の充実に向けた取り組み

問8 コロナ禍における学生生活を充実させるためにどのようなことに取り組んでいますか。(複数回答可)



〈その他〉

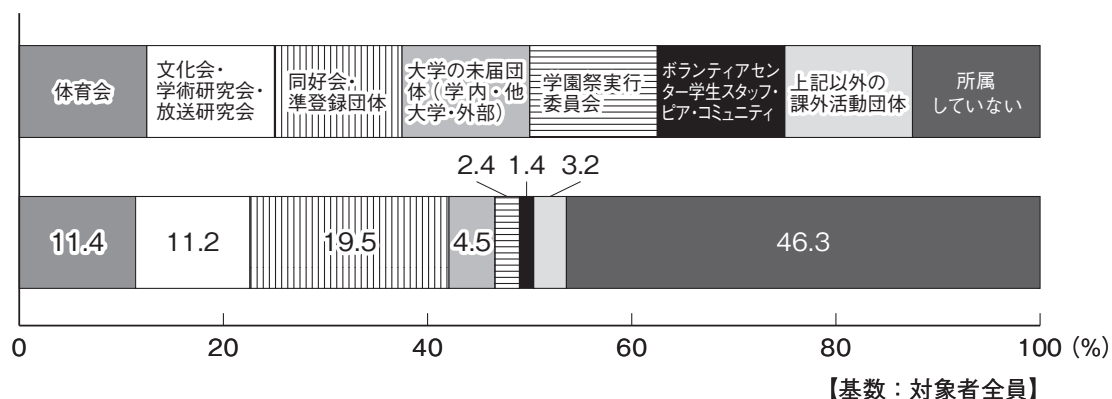
- ・特に取り組んでいることはない
- ・就職活動
- ・インターンシップ
- ・健康管理
- ・ペットとのふれ合い
- ・起業活動

学生生活の充実に向けた取り組みは、「趣味」が最多

コロナ禍における学生生活を充実させるための取り組みとして、最も多かった回答は、「趣味」で55.2%であった。「修学・学業」「課外活動」「友人・対人関係の構築」「アルバイト」も相当数の回答があり、学生個々がコロナ禍における学生生活を充実させるために様々な取り組みを行っていることが確認できた。

課外活動の種類

問9 あなたは課外活動団体（クラブ、サークル、ボランティア、ピア・サポート活動等）に所属していますか。



約半数の学生が課外活動団体に所属している

課外活動団体への参加状況について、学内外を含めた課外活動団体に所属していると回答した学生の割合は53.6%となった。また、「所属していない」と回答した学生は46.3%となっており、2020年度学生生活実態調査における類似質問と比較したところ、3.6ポイント減少し、僅かではあるが、課外活動団体に所属する学生が増加していることが読み取れる。

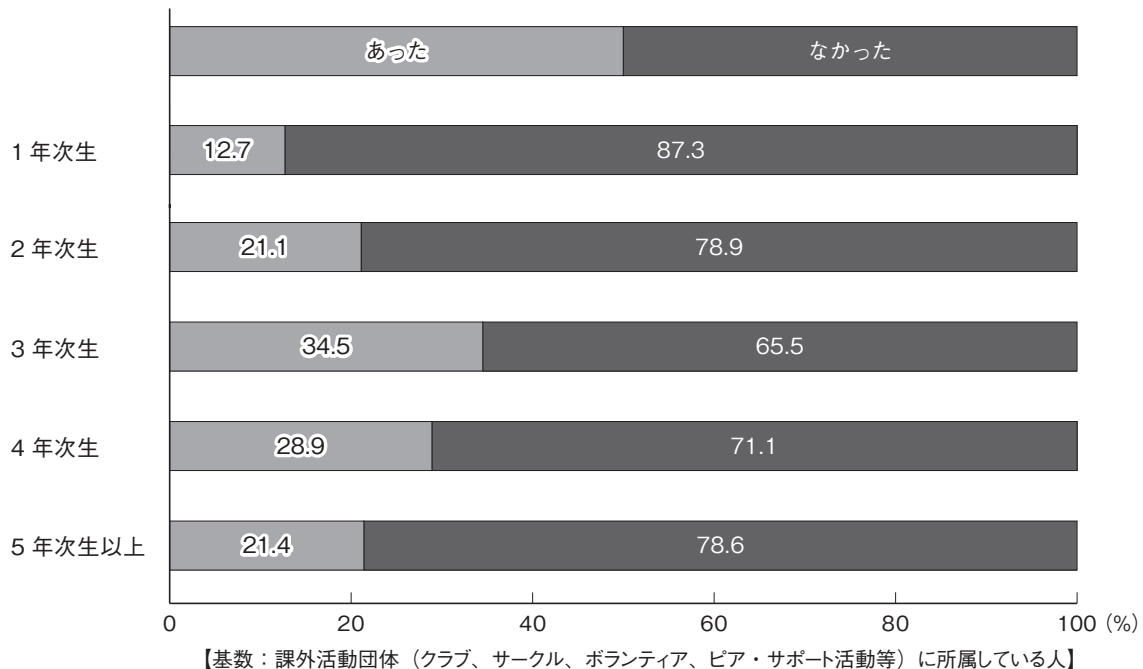
2020年度学生生活実態調査において、割合の高かった「1年次生かつ課外活動団体に所属したことがない」と今回調査の「1年次生かつ課外活動団体に所属していない」を比較すると28ポイント減少している。おそらく、2020年度4月は対面での新生歓迎オリエンテーションが実施できなかったのに対し、2021年度4月は実施できたことが大きなポイントの差異につながったものと推察される。

2020年度に入学し、2021年度に2年次生となった学生については、「課外活動団体に所属していない」と回答した割合が23ポイント減少しており、この1年間で課外活動団体に所属した学生が増加したことがわかった。

課外活動の勧誘活動

問10

問9で「体育会に所属している」～「上記以外の課外活動団体に所属している」と答えた方にうかがいます。課外活動に入部するにあたり、または勧誘活動を行ううえで、困ったことはありましたか。
※1年次生は、クラブ選びをするにあたり困ったこと、2年次生以上は、勧誘活動をするにあたり困ったこと



問10-1

問10で「あった」と答えた方にうかがいます。困った内容を具体的にお答えください。

【クラブ選びをするにあたり困ったこと】

- ・具体的な活動内容がわからなかった。
- ・十分な見学や体験ができなかった。
- ・オンラインでの説明会が多く、実際の雰囲気わからなかった。
- ・緊急事態宣言発令時には、体験会や見学会などが軒並み中止となったため、入部を検討するにあたっての判断材料が非常に少なかった。
- ・勧誘期間終了後、サークルを選ぶ前に遠隔授業に移行してしまった。
- ・パンフレットやSNSの写真などを見て入部したため実際の雰囲気がわからなかった。直接行ってみたら自分の思っていたサークルと違った。
- ・どのような団体があるのかわからないまま入部することとなってしまった。
- ・友人が少なかったため、情報が少なかった。
- ・情報収集に時間がかかった。
- ・部活にかかる金銭や授業との両立について十分に確認できなかった。
- ・団体からの勧誘が多く、困った。
- ・サークルの数が多すぎて選ぶのに苦労した。
- ・各団体の新歓イベントがいつ行われているかがわからなかった。
- ・千里山キャンパスで開催された新入生歓迎オリエンテーションは、他キャンパスの学生は授業との兼ね合いから参加できなかったため、次年度以降配慮してほしい。
- ・コロナ感染が不安で体験会に参加できなかった。
- ・感染症対策をして活動しているのか分からなかった。
- ・履修登録期間と重なっており、参加できなかった。
- ・千里山キャンパス以外での勧誘活動がなかったため、団体探しに苦労した。

- ・交流の機会が少なく、横のつながりが希薄である。
- ・入部時期が他の皆とずれてしまい、馴染みにくかった。

【勧誘活動をするにあたり困ったこと】

- ・新入生に対して十分な勧誘活動を行うことができなかった。
- ・オンライン上での勧誘活動に苦慮した。
- ・先読みできない状況であったため、様々な状況を想定した企画を用意する必要があるがあった。
- ・勧誘期間が短かった。
- ・新歓期間中に緊急事態宣言が発令され課外活動が禁止となり、その後の勧誘活動について悩んだ。
- ・体験や見学に人数制限があり、新入生の希望を聞くことができなかった。
- ・勧誘活動の大半をオンラインにて実施したが、1年次生がZoom等の操作に慣れておらず、参加できなかったという声を聞いた。
- ・お互いの顔を見ることができず、勧誘活動に苦慮した。
- ・マスク着用しての勧誘活動であったため、声が通らなかった。
- ・新歓ができなかったのが辛かった。
- ・コロナ禍で慣例行事や合宿を経験していない部員が勧誘することになり、団体をうまく紹介することができなかった。
- ・この時期に勧誘していいのかためらいがあった。
- ・団体の雰囲気伝えるのが難しかった。
- ・実際に活動している雰囲気を見せることができなかった。
- ・部員間でのコミュニケーションが希薄となり、部員把握も困難となった。
- ・新歓が開催できなかったため入部時期がバラバラで都度対応しないといけない。
- ・大学の指針発表が遅く、直前にキャンセルせざるを得なかった。
- ・例年よりも入部者が少ない。
- ・部員数の確保ができず、存続の危機に瀕している。
- ・昨年（2020年）は勧誘活動が思うように行えなかったため、現2年次生の部員が他学年に比べて少ない。
- ・団体内で2年次生の定着率が低い。
- ・施設予約が取れないことが多く、活発な活動ができなかった結果、退部者が多くなった。
- ・入部してくれても活動させてあげられるのかという不安から積極的な勧誘がためられた。
- ・課外活動の楽しさを伝えることが難しい。
- ・団体の魅力を伝えることに苦労した。
- ・課外活動の取り扱いの掲出が遅かった。
- ・活動に関する制限が厳しく、思うような活動を行うことができない。
- ・勧誘活動がオンライン中心となり、元々興味があり自ら調べようとした新入生にしかアクセスしてもらえなかった。
- ・新入生の多くがコロナ禍で合唱というリスクの高い課外活動に参加しにくい感じだった。
- ・フェイスシールドやブースの人数制限、見回りの方のチェックが厳しく勧誘活動がかなりやりにくかった。
- ・新入生歓迎オリエンテーションは、入学式直後の時期ではなく、大学生活にも慣れた時期に実施してもよいのではないか。
- ・ミュージックキャンパスでは、新入生勧誘のためのオリエンテーションが実施されず、勧誘活動に苦労した。

困ったことは「なかった」の回答が7割以上

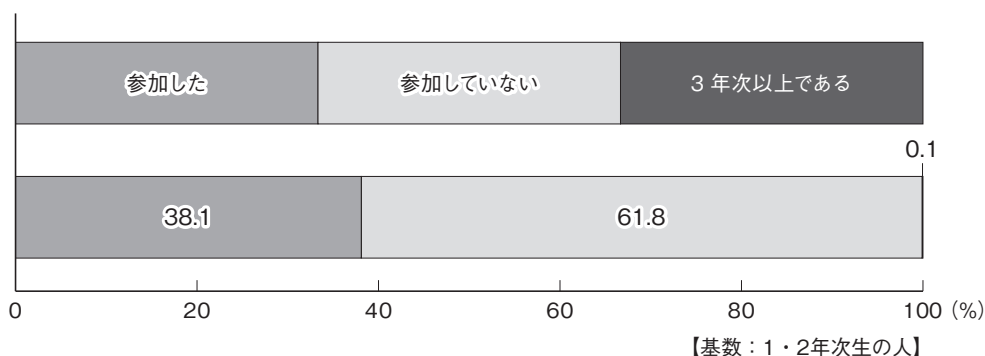
学内外の課外活動団体に所属している学生に、課外活動に入部するにあたり、または勧誘活動を行ううえで、困ったことの有無をたずねたところ、77.8%の学生が困ったことは「なかった」と回答した。一方、困ったことが「あった」と回答した学生の割合は22.2%となり、オンラインでの勧誘活動においては、実際の課外活動団体の雰囲気が伝えられない・わからないという意見が多く挙げられた。

課外活動新入生歓迎オリエンテーションの参加状況

問11

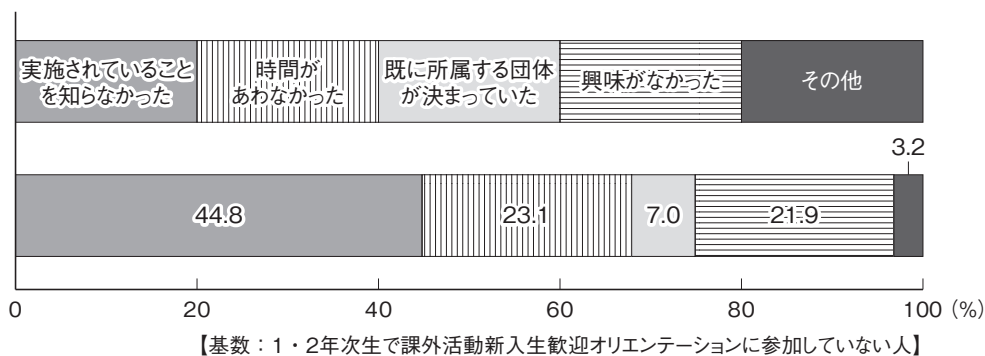
1年次生・2年次生にうかがいます。

2020年9月もしくは2021年4月の課外活動新入生歓迎オリエンテーションに参加しましたか。



問11-1

問11で「参加していない」と答えた方にうかがいます。その理由は何ですか。



〈その他〉

- ・参加しにくかったため。
- ・入学当時、友人がおらず1人で参加することに気が進まなかった。
- ・日本に入国できていなかったため。
- ・履修登録期間と重なり、参加できなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症が怖く参加できなかった。
- ・実施日がわからなかった。
- ・コロナ禍により、部活に参加しても活動できないだろうと予測していたから。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、課外活動が制限されていることから、すぐに課外活動団体に入る必要がないと考えたため。
- ・濃厚接触者に指定され自宅待機を余儀なくされていたため。

約6割の学生が課外活動新入生歓迎オリエンテーションに不参加

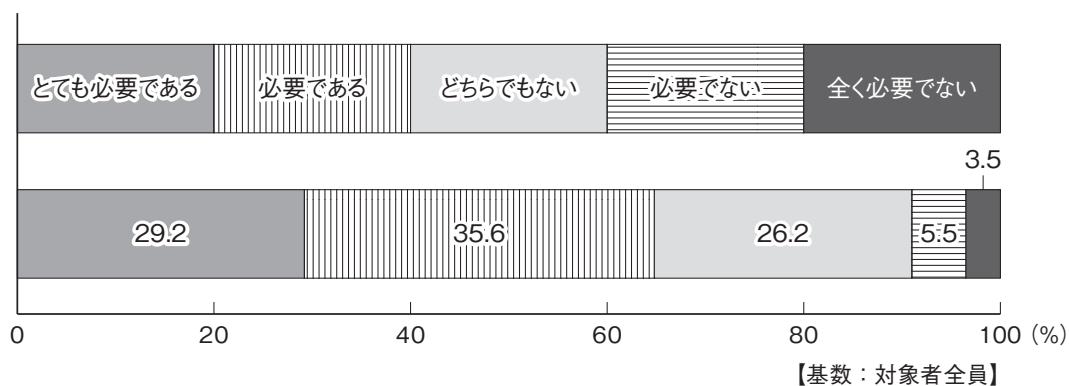
課外活動新入生歓迎オリエンテーションの参加状況について、「参加していない」と回答した学生の割合は、61.8%となった。

「参加していない」を回答した学生のうち、「実施されていることを知らなかった」と回答した学生の割合が、44.8%となり、周知方法等の見直しを検討する必要があると思われる。また、「時間があわなかった」と回答した学生が23.1%となっていることから、対面での開催のみならず様々な開催形態での検討を行う必要がある結果となった。

課外活動の必要性

問12

コロナ禍における課外活動（クラブ、サークル、ボランティア、ピア・サポート活動等）は、学生生活を充実するために必要であると感じますか。



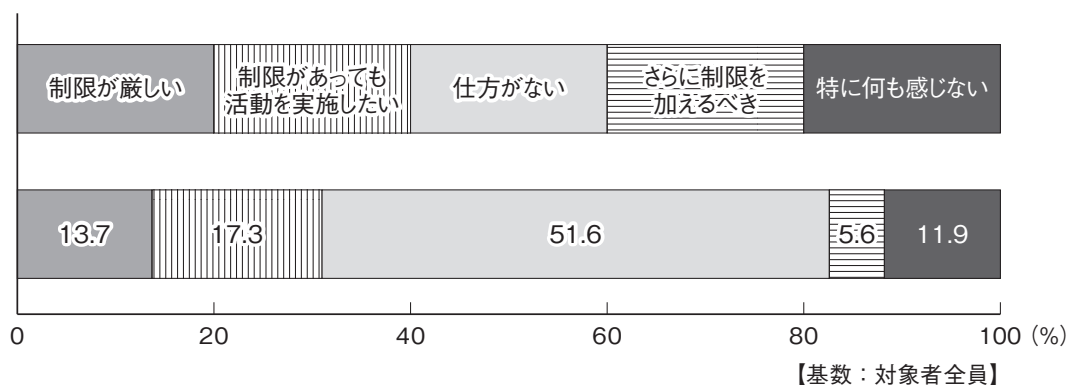
学生生活の充実に課外活動が必要と回答する学生が約65%

今回の調査で、課外活動が学生生活を充実させるために「とても必要である」「必要である」と回答した学生の割合が、64.8%となり、課外活動が学生生活を充実させるための貴重な機会であることがわかった。

また、クロス集計表では、「とても必要である」「必要である」と回答した学生のうち、コロナ禍のストレスを「大変感じている」「やや感じている」と回答した学生の割合が、約70%となっており、新型コロナウイルス感染症の影響による様々な活動制限によりストレスを感じているものであると推測される。

課外活動の制限

問13 課外活動が制限されたことについて、どのように感じましたか。

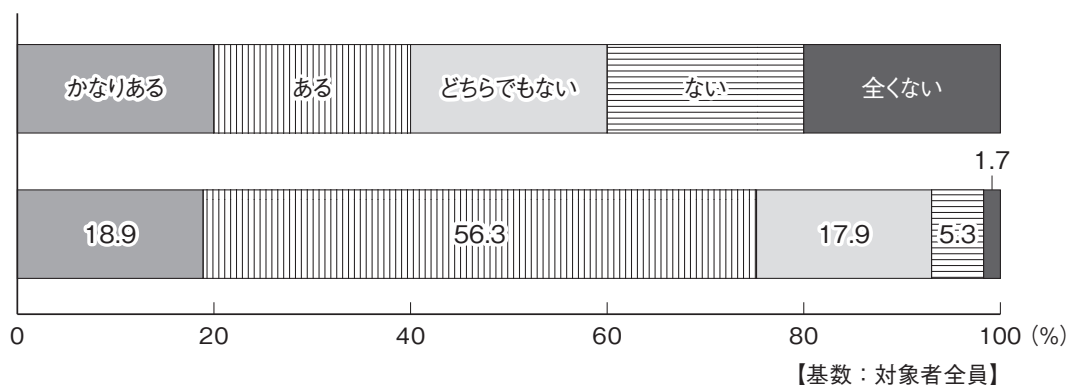


「仕方がない」が過半数を占める

コロナ禍における課外活動の制限について、「仕方がない」と回答した学生の割合が過半数であったことから、活動制限に関して、一定の理解を得ていることが確認できた。その他、「制限が厳しい」が13.7%、「制限があっても活動を実施したい」が17.3%、「さらに制限を加えるべき」が5.6%、「特に何も感じない」が11.9%という結果となった。

学生生活でチャレンジしたいこと

問14 学生生活でチャレンジしたいことはありますか？

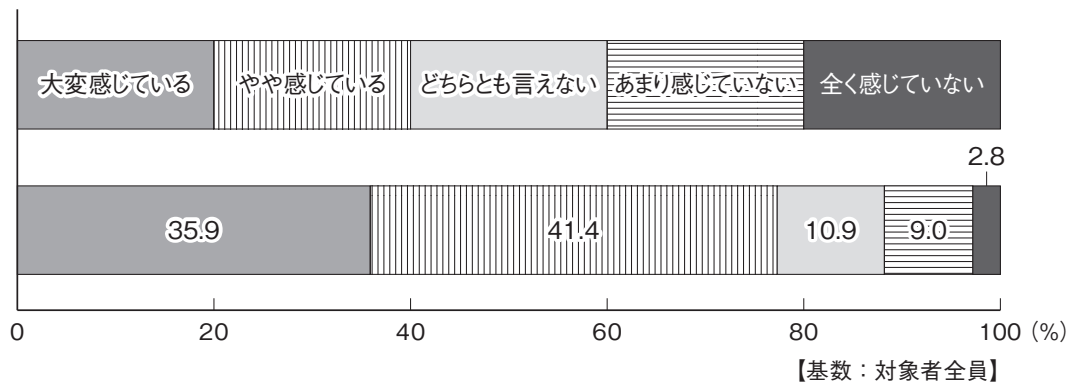


学生生活でチャレンジしたいことがある学生が約75%

学生生活でチャレンジしたいことについて、「かなりある」「ある」と回答した学生の割合が75.2%であり、大変前向きな結果となった。学生がチャレンジしたいことに対して、提供できる支援を検討していく必要があると考える。

コロナ禍におけるストレス・不安

問15 コロナ禍においてストレスや不安を感じていますか。



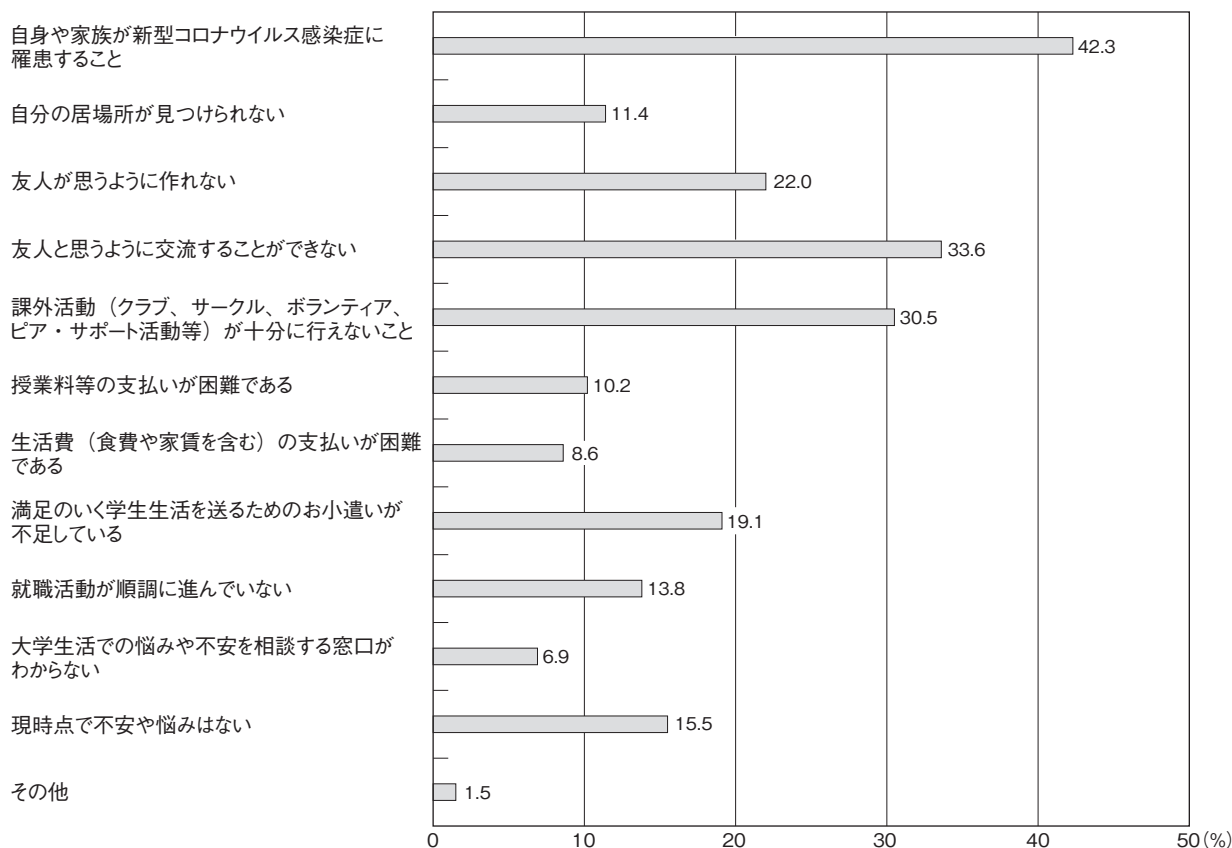
コロナ禍におけるストレス・不安を感じる学生が約77%

コロナ禍におけるストレスや不安について、「大変感じている」「やや感じている」と回答した学生が、77.3%となり、大多数の学生がコロナ禍において、ストレスや不安を感じているという結果となった。

また、クロス集計表でみると、学生生活が「充実している」「まあまあ充実している」を選択した学生の内、コロナ禍におけるストレスや不安を「大変感じている」と回答した学生の割合は29.2%、28.7%であるのに対し、学生生活が「あまり充実していない」「充実していない」を選択した学生については、ストレスや不安を「大変感じている」の回答割合が54.5%、71.8%となり、学生生活の充実度とストレス・不安の結びつきを確認できる結果となった。

修学面以外の不安

問16 修学面以外で不安や悩みはありますか。(複数回答可)



【基数：対象者全員】

〈その他〉

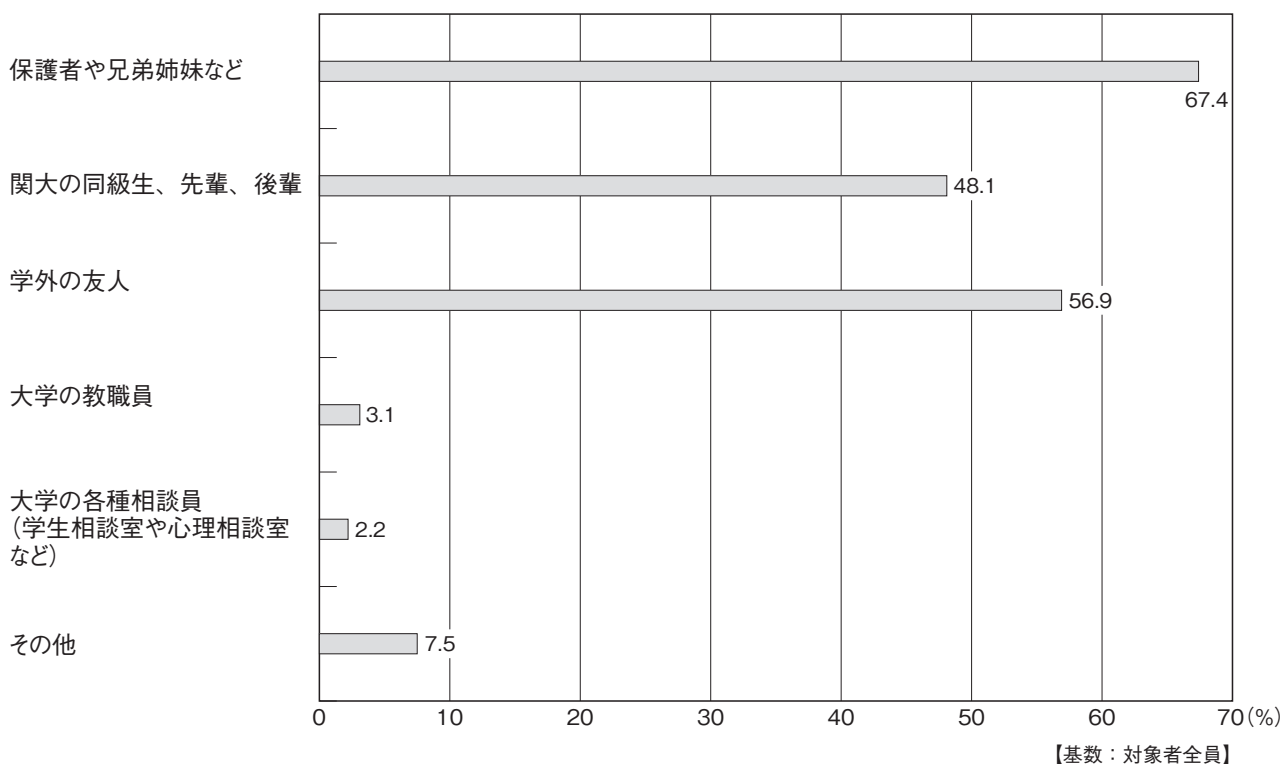
- ・ ワクチン接種を推奨する風潮にストレスを感じる。
- ・ 新型コロナウイルスワクチンの副反応が怖い。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により気軽に実家へ帰省ができないこと。
- ・ 緊急事態宣言中であるにもかかわらず、遊んでいる人が多い。
- ・ 課外活動に関する制限が緩い。
- ・ 所属する課外活動団体において適切な感染症対策が講じられておらず、不安がある。
- ・ どの課外活動団体に入部すればよいか迷っている。
- ・ 留学に行けないこと。
- ・ アルバイトの探し方がわからない
- ・ アルバイト先がなかなか決まらない。
- ・ 大学生としての実感がないこと。
- ・ ストレス発散の手段がない。
- ・ 家事に苦勞している。

「自身や家族が新型コロナウイルス感染症に罹患すること」が最多

修学面以外の不安について、「自身や家族が新型コロナウイルス感染症に罹患すること」が最多となり、次いで、「友人と思うように交流することができない」、「課外活動が十分に行えないこと」であった。また、「友人が思うように作れない」について、学年別クロス集計表でみると、1・2年次生で特に高い割合となっており、新型コロナウイルス感染症の影響による遠隔授業や課外活動の活動制限によって、友人作りの機会そのものの減少が明らかとなった。

相談相手

問17 あなたにとって悩みを相談する相手は誰ですか。(複数回答可)

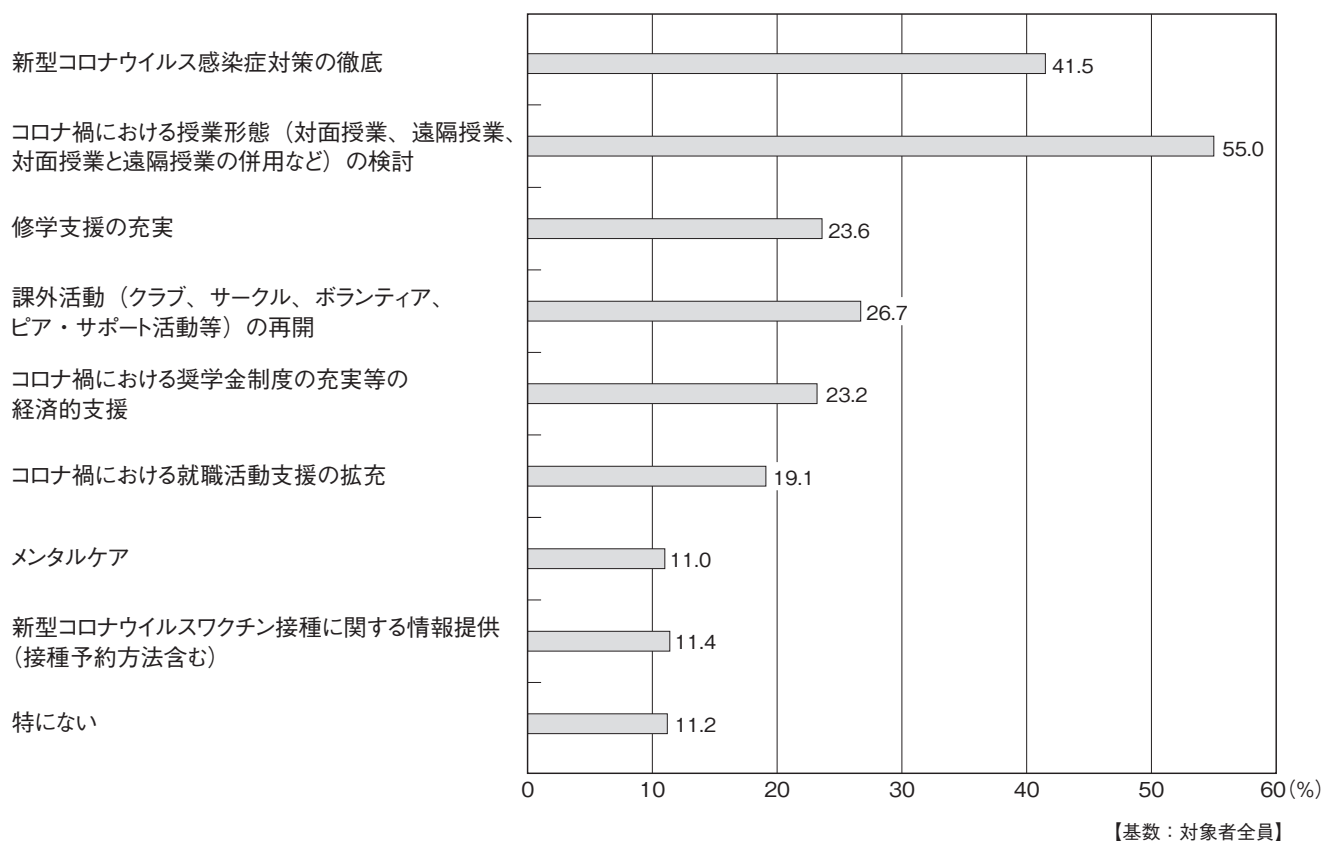


悩み相談相手は、「保護者や兄弟姉妹など」が最多

悩みを相談する相手について、「保護者や兄弟姉妹など」を回答した学生が67.4%となり、次いで、「学外の友人」・「関大の同級生、先輩、後輩」となった。延べ回答数に対する前述の3つの選択肢を選択した割合は、約93%となり、相談者である学生にとって、保護者や友人など近い関係の人に相談する傾向が強いことがわかった。

大学に求める支援

問18 今後、大学にどのようなことを取り組んでほしいですか。(複数回答可)



「コロナ禍における授業形態の検討」が最多

コロナ禍で大学に対して求める支援について、「コロナ禍における授業形態の検討」が55.0%と最多であり、次いで、「新型コロナウイルス感染症対策の徹底」であった。

「コロナ禍における授業形態の検討」については、コロナ禍で遠隔授業が普及したことによるものだと推測される。今後の授業の展開方式について、検討していく必要がある結果となった。